

# CSRの目標・計画と実績およびGRI-G4の指標

ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのためにISO26000に沿ってロームグループの「CSR重点課題」を特定し、取り組みテーマ、目標・計画を設定しています。また、GRI-G4のカテゴリに基づき指標を開示しています。

CSR重点課題	ISO26000 中核主題	取り組みテーマ	2015年度目標・計画	2015年度実績	評価	2016年度目標・計画	G4のカテゴリ	報告するG4の指標 (2015年度実績)	指標の範囲	
1. 革新的な製品による社会的課題の解決		お客様から求められるニーズを的確に把握し、世界をリードする製品を開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSVについて事例集を作成しグループ各社に水平展開する。</li> <li>階層別教育などを通じて社会的課題と自らの業務との関連を明確にし、CSVの重要性の理解度を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロームグループのCSRのテーマとなる3つのECOを特定し、国内外すべての拠点にビデオ配信で水平展開。</li> <li>また、国内外関係会社での教育、階層別教育も実施。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSVワークショップを開催し、生産、開発、営業、管理の切り口からロームのCSV事例を作成し、社員との共有をはかる。</li> </ul>	製品およびサービス G4-EN27	開発製品に占める環境配慮型製品の開発割合:88%	ローム	
	2. 高品質な製品の安定供給	消費者課題 (お客様への対応)	製品品質の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品の設計品質のさらなる向上と品質問題の徹底した分析で、品質改善活動を継続して推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新製品の設計レビュー体制の見直しによる体制強化を実施。</li> <li>会社全体の品質状況を見える化し、品質改善のPDCAを促進する体制を構築。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>未然防止に重きを置いた仕事のやり方で製品、人、行動の全体品質を向上させる。</li> </ul>	コンプライアンス G4-PR9	PL法の違反に対する件数・罰金:なし 環境法規則の違反に対する件数・罰金:なし	ロームグループ
安定供給のためのBCM (事業継続マネジメント) 体制の維持・向上			<ul style="list-style-type: none"> <li>主要生産拠点が抱えるリスクの再調査を実施する。</li> <li>BCP (事業継続計画) の見直しを行い、教育訓練によって浸透をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要リスクの洗い出しと是正対応を実施。</li> <li>BCPの見直しを継続。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCPの見直しを行い、教育訓練によって浸透をはかる。</li> </ul>	間接的な経済影響 G4-EC8	極めて重要なリスクとして「災害による生産拠点などの操業停止や減産がお客様や社会全体に及ぼす悪影響」を想定。	—	
3. 国際社会に貢献できるグローバル人材の育成	人権/ 労働慣行	ダイバーシティの推進/ 働きやすい職場環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な価値観に合わせた働き方を実現する人事コース制度の整備。</li> <li>社員の「ライフ」全般を支援するセミナーを開催、福利厚生サービスの拡充。</li> <li>組織の壁を越えた社員間の活発な交流を促進する施策の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育をテーマとしたセミナーを開催、食と健康に興味を持てるような取り組みを実施。</li> <li>一体感を醸成するきっかけとなる社員とその家族も含めた全社イベントを実行。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性活躍推進に向けた制度の整備や研修の実施。</li> </ul>	雇用 G4-LA3	出産・育児休暇後の復職・定着率:復職率88%、 定着率97%	ローム	
		グローバルビジネスを担う 人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代リーダー研修の選抜対象を拡大する。</li> <li>グローバル共通の等級制度の展開による人材の発掘・育成を進める。</li> <li>海外での採用活動の拡大を通じたグローバル人材の発掘・育成を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職を対象にした研修を新規導入し、役職・グレードに紐付いた人材育成体系を確立。</li> <li>役職ごとに選抜型の研修を実施し、リーダー育成プログラムを拡充した。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年度に確立した人材育成体系を非管理職層に拡大する。</li> <li>過去の選抜型の研修経験者を中心に人材を厳選した長期育成プログラムを検討する。</li> </ul>	多様性と機会均等 G4-LA12	外国人従業員比率:1.66%	ローム	
4. バリューチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮	組織統治	CSR マネジメント 体制の 維持・向上	CSR体制の 強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外6生産拠点にてEICC監査を受審する。</li> <li>EICC監査に対して監査マニュアルを策定し、グループの底上げをはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外6生産拠点においてEICC監査を受審し、3拠点において指摘ゼロを達成。</li> <li>EICC監査マニュアルを作成し、関係会社へ展開をはかった。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内主要8生産拠点にてEICC監査を受審する。</li> </ul>	—	国際的な規格に基づくマネジメントシステムについてはP.20に記載。	ローム
			労働・倫理 マネジメント システムの 構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きロームグループにおいて労働・倫理のマネジメントシステムを展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメントシステムを継続して管理。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正なマネジメントシステムの管理を継続する。</li> </ul>	—	—	—
	人権/ 労働慣行	人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外主要6生産拠点にてEICC監査を受審し人権の尊重について更なる強化をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外主要6生産拠点において、労働・倫理マネジメントシステムを確立。EICC監査も受審し、継続的な改善を実施。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ会社に労働・倫理マネジメントシステムを構築する。</li> </ul>	サプライヤーの 人権評価 G4-HR10、11	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目:人権) A評価:104社、A-評価:29社、B評価:17社、C評価:0社、 D評価:0社	ローム グループの お取引先様	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>労働災害発生ゼロに向けて国内・海外主要生産拠点においてOHSAS18001認証を取得する。</li> <li>新人事・給与制度を全社員へ展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内関係会社(R/アポロ、R/ワコー、R/ロジステック、ラピス、ラピス宮崎、ラピス宮城)において第三者認証取得。</li> <li>海外関係会社(KOREA, REDA, RIST, REPI)において第三者認証取得。</li> <li>従業員組合との協議を経て、すべての正社員の人事制度を変更。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内海外主要生産拠点においてクロスチェックを実施する。</li> </ul>	労働安全衛生 G4-LA6、7	業務関連の人権方針や手順について研修を受けた 保安要員の比率:100%	国内生産拠点	
		安全で働きやすい職場 環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働災害発生ゼロに向けて国内・海外主要生産拠点においてOHSAS18001認証を取得する。</li> <li>新人事・給与制度を全社員へ展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内関係会社(R/アポロ、R/ワコー、R/ロジステック、ラピス、ラピス宮崎、ラピス宮城)において第三者認証取得。</li> <li>海外関係会社(KOREA, REDA, RIST, REPI)において第三者認証取得。</li> <li>従業員組合との協議を経て、すべての正社員の人事制度を変更。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内海外主要生産拠点においてクロスチェックを実施する。</li> </ul>	労働安全衛生 G4-LA6、7	<ローム[女性/男性]> 傷害の種類:切傷・火傷、傷害率:[0/0.00000075]、 業務上疾病率:[0/0]、休業日数率:[0/0.00009]、 欠勤率:[0.0103/0.0083]、業務上の死者数:[0/0] <請負会社[男性のみ]> 傷害の種類:切傷、傷害率:[0.00000175]、 業務上疾病率:[0]、休業日数率:[0]、欠勤率:[0.0063]、 業務上の死者数:[0] 有害性のある業務に携わっている労働者の有無: 有(対象者:435名)	ローム	

CSR重点課題	ISO26000 中核主題	取り組みテーマ	2015年度目標・計画	2015年度実績	評価	2016年度目標・計画	G4のカテゴリ	報告するG4の指標 (2015年度実績)	指標の範囲	
4. パリチェーンにおける人権尊重の徹底と労働慣行などへの配慮	公正な事業慣行	「ロームグループ行動指針」に基づいた公正な事業活動を推進	コンプライアンス体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層別コンプライアンス研修を継続実施する。</li> <li>社員向け「リーガルラーニング」を継続実施する。</li> <li>CSR月間においてコンプライアンスの啓発活動を継続実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入社員から管理職において階層別コンプライアンス研修を実施。</li> <li>リーガルガイドブックについて、CSR月間における啓発活動を展開。</li> <li>労働と倫理に関する啓発活動において、イントラネット上で理解度確認を実施。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層別コンプライアンス研修を継続実施する。</li> <li>行動指針の啓発を継続実施する。</li> </ul>	腐敗防止 G4-SO4	腐敗防止の方針を含む「ロームグループ行動指針」を7カ国語に翻訳し、海外を含む全グループ会社全社員に配布。階層別コンプライアンス研修において腐敗防止の方針を含む「ロームグループ行動指針」の啓発を実施(2015年度は、本社360名が受講)。コンプライアンス・ホットラインについては、26ページに記載。	ロームグループ
		公正な競争・取引	<ul style="list-style-type: none"> <li>全グループ会社でCSR調達監査・再監査の伸張。</li> <li>外注加工先様へのCSR調達活動開始。</li> <li>紛争鉱物調査を継続。</li> <li>阻害要因対策を行いながら取引基本契約締結率98%超を目標に継続。</li> <li>CSR調達セルフアセスメント継続。</li> <li>お取引先様へセルフアセスメント結果のフィードバック。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロームグループ全社でCSR調達監査を実施。</li> <li>外注加工先様へのCSR調達活動実施。</li> <li>100%CFISに向けて紛争鉱物調査継続。</li> <li>CSR調達報告会開催(本社)。</li> <li>CSR調達セルフアセスメント継続。</li> <li>お取引先様へセルフアセスメント結果のフィードバック。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>全グループ会社でCSR調達監査・再監査の伸張。</li> <li>外注加工先様へのCSR調達活動を継続する。</li> <li>紛争鉱物調査を継続する。</li> <li>CSR調達セルフアセスメントを継続する。</li> <li>お取引先様へセルフアセスメント結果をフィードバックする。</li> <li>グループ会社でCSR調達報告会を開催する。</li> </ul>	サプライヤーの社会への影響評価 G4-SO9、10 サプライヤーの人権評価 G4-HR10、11 サプライヤーの労働慣行評価 G4-LA14、15	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目:倫理/危機管理体制の構築) A評価:77社、A-評価:33社、B評価:28社、C評価:8社、D評価:4社 2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目:人権) A評価:104社、A-評価:29社、B評価:17社、C評価:0社、D評価:0社 2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(項目:労働慣行(安全衛生)) A評価:136社、A-評価:7社、B評価:6社、C評価:4社、D評価:0社	ロームグループのお取引先様	
		環境	「2020年度に向けた中期目標」を軸とした施策の展開	拠点におけるCO2対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。</li> <li>CO2排出量原単位を2015年度に2014年度実績より1%削減する。</li> <li>温室効果ガス(PFCs、SF6など)排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量を2015年度生産量に応じた予測値より7.3%削減。</li> <li>CO2排出量原単位を2015年度に2014年度実績より0.2%増加。</li> <li>温室効果ガス(PFCs、SF6など)排出量を2015年度生産量に応じた予測値より22.7%削減。</li> </ul>	★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2排出量を2016年度生産量に応じた予測値より1%削減する。</li> <li>CO2排出量原単位を2016年度に2015年度実績より1%削減する。</li> <li>温室効果ガス(PFCs、SF6など)排出量を2016年度生産量に応じた予測値より1%削減する。</li> </ul>	大気への排出 G4-EN5、15、16、17、18、20、21	スコープ1 CO2排出量:42,904 t-CO2 スコープ2 CO2排出量:515,535 t-CO2 スコープ3 CO2排出量:408,551 t-CO2 (カテゴリ1,3,4,5,6,7) スコープ1,2排出量原単位:0.509(t-CO2/百万円) 2015年PFCガス排出量(GWP-t):95,879 t-CO2
環境	「2020年度に向けた中期目標」を軸とした施策の展開	パリチェーンを通じたCO2対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し公開カテゴリを拡大する。</li> <li>開発製品に占める環境配慮型製品の割合を2015年度に75%とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し6カテゴリを公開(2014年度6カテゴリ公開)。</li> <li>開発製品に占める環境配慮型製品の割合は88%。</li> </ul>	★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>スコープ3基準に準じた温室効果ガス運用モデルを策定し公開カテゴリを拡大する。</li> <li>開発製品に占める環境配慮型製品の割合を2016年度に80%とする。</li> </ul>	サプライヤーの環境評価 G4-EN32、33	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(環境) A評価:131社、A-評価:9社、B評価:4社、C評価:4社、D評価:1社	ロームグループのお取引先様	
環境	「2020年度に向けた中期目標」を軸とした施策の展開	環境汚染物質の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRTR対象物質取扱い原単位は、2014年度実績値を維持する。</li> <li>VOC排出量を2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRTR対象物質取扱い原単位は、2014年度実績より12.7%削減。</li> <li>VOC排出量を2015年度生産量に応じた予測値より15.7%削減。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRTR対象物質取扱い原単位は、2015年度実績値を維持する。</li> <li>VOC排出量を2016年度生産量に応じた予測値より0.5%削減する。</li> </ul>	排水および廃棄物 G4-EN23	2015年国内廃棄物排出量:6,734t 2015年海外廃棄物排出量:5,652t	ロームグループ	
環境	「2020年度に向けた中期目標」を軸とした施策の展開	資源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外連結で廃棄物排出量原単位は、2014年度実績値を維持する。</li> <li>水の投入量を、2015年度生産量に応じた予測値より1%削減する。</li> <li>国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位の2014年度実績を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外連結で廃棄物排出量原単位は、2014年度実績より0.6%削減。</li> <li>水の投入量を、2015年度生産量に応じた予測値より5.8%削減。</li> <li>国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位の2014年度実績より4.2%削減。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外連結で廃棄物排出量原単位は、2015年度実績値を維持する。</li> <li>水の投入量を、2016年度生産量に応じた予測値より0.5%削減する。</li> <li>国内連結でゼロエミッションを維持する。</li> </ul>	水 G4-EN8 エネルギー G4-EN3	2015年総取水量:9,915千m <sup>3</sup> 2015年度電力使用量:1,363,797MWh エネルギー消費によるCO2排出量:558,419 t-CO2	ロームグループ ロームグループ	
環境	「2020年度に向けた中期目標」を軸とした施策の展開	グリーン調達ガイドラインに則った化学物質管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>新ガイドラインを発行し、グループ全体での運用徹底をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロームグループCSR調達ガイドライン第二版発行。改訂版CSR調達セルフアセスメントの実施。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全体での運用徹底をはかる。</li> </ul>	サプライヤーの環境評価 G4-EN32、33	2015年度CSR調達セルフアセスメント結果(環境) A評価:131社、A-評価:9社、B評価:4社、C評価:4社、D評価:1社	ロームグループのお取引先様	
6. 事業を通じた地域コミュニティへの貢献	コミュニティへの参画および発展	良き企業市民として社会の発展や健全化に貢献	音楽文化の普及・発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽文化に関する支援を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元京都の京都市交響楽団演奏会ほか、多くのコンサートへの協賛を実施。</li> <li>ローム ミュージック ファンデーション主催でロームが協賛した「京都・国際音楽学生フェスティバル」でメセナアワード2015優秀賞を受賞。</li> <li>小澤征爾音楽塾(若い音楽家の育成プロジェクト)を支援、また同プロジェクトで小学生を対象とした「子どものためのオペラ」を支援。</li> <li>公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションの事業を支援。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽文化に関する支援を継続する。</li> </ul>		1960年4月の開館以来、50年以上にわたり京都の「文化の殿堂」として市民に愛され、世界に冠たる文化・交流ゾーンである、京都市左京区の岡崎地域に位置する貴重な文化財産である京都府会館を利用者のニーズにこたえるよう京都市が全面的な再整備を行うにあたり、2014年度に50年間(52億5千万円)の命名権取得を通じて支援。2016年1月10日にオープンし、オープニング事業などを支援。	ロームおよび地域の皆様
		広く社会のニーズに対応した適切な寄付や賛助活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のニーズをとらえた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年度の寄付・協賛金額1億7,580万円。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のニーズをとらえた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。</li> </ul>	地域コミュニティ G4-SO1			
		地域社会からの要請に応じた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。</li> <li>モノづくり教育のコンテンツを再考し、学生に興味のある教材を提供する。</li> <li>地域に根差した社会貢献活動を展開する(積極的なボランティア事例など)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育コンテンツを改良しつつ、小学生向けモノづくり授業・環境学習授業を実施。</li> <li>その他、高校生や大学生を対象に社員による講義を実施(総計1,900名以上)。</li> <li>ありがと本活動を通じ、東日本大震災の復興を支援(2016年5月時点で計2万点以上を寄付)。</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。</li> <li>モノづくり教育のコンテンツを再考し、学生に興味のある教材を提供する。</li> <li>地域に根差した社会貢献活動を展開する(積極的なボランティア事例など)。</li> </ul>		モノづくり授業や工場見学などの地域社会からの要請に対して取り組みを実施した割合:100%	ロームグループ	